

ペルー 生食用ブドウ輸出量で世界一の地位を確立

[The Grape Reporter 2025年10月7日](#)

ラボリサーチ(オランダの金融機関の研究所)の最近の報告書によると、ペルーは生食用ブドウの輸出で長年首位にあったチリを上回ったことが確実であり、世界最大の輸出国としての地位を確固たるものにした。

このアンデスの国(ペルー)は、過去数年間にわたり出荷量を持続的に増加させており、2024/25年度には前例のない460万トン进行供給し、同国としての最高記録となった。(原文のまま。ラボリサーチの報告書では460万トンは世界の輸出量。No.265参照)

しかし、その首位の座は安泰からは程遠い。輸出量が1億箱を超えると予想される中国が急速に追い上げており、このアジアの大国は2030年までに世界の生食用ブドウ市場の構図を変えると見込まれている。

ペルーがトップに立った背景

報告書によると、ペルーの成功は、この分野における競争力の高まりと、輸出国間のこれまでのパワーバランスの変化を反映しており、ペルーの成長は市場の多様化に向けた新たな機会をも切り開いている。

この産業の新たな展望の中で、東南アジアは輸出業者にとって戦略的かつ極めて魅力的な出荷先として注目されている。

ペルーが首位に上り詰める道を切り開いた要因は多岐にわたる。分析会社のアグロメトリクス社は、同国の栽培面積と輸出能力の拡大、特に種なしブドウと緑色品種の増加を挙げている。

物流、コールドチェーンインフラ、サプライチェーンの信頼性への投資、さらに改良品種の開発及び収量管理の改善も役割を果たした。それに加えて、戦略的な市場の多様化により、ペルーは少数の大口輸入国への過度な依存を回避することが可能となった。

アグロメトリクス社によると、この再配置は、チリ、南アフリカ、及びその他の地域の既存の生産者にとって、課題とチャンスの両方をもたらすものである。

アジア、欧州、北米における生食用ブドウ需要の促進要因

アジアでは、中産階級の成長と消費習慣の変化に支えられた中国が、生食用ブドウの需給を牽引している。ラボリサーチの上級アナリストであるゴンサロ・サリナス氏は、「中国の自給が進むにつれて、輸入への依存度が低下し、世界の生食用ブドウ産業における地位が確立される」と説明した。アグロメトリクス社によると、中国の輸出量は今後数年間で1億箱を超えると予測されている。

北米では、米国の輸出は安定しており、同専門家は、小売の拡大と販売促進戦略がメキシコ等の市場における顕著な成長を牽引していると述べている。国境以南(メキシコ)の生食用ブドウ産業は、米国市場と国内市場の双方における継続的な需要の恩恵を受けて回復力を維持している。

南米では、近年の異常気象にもかかわらず輸出が回復し、史上最高の130万トンに達した。この回復により、2025/26年度における持続的な成長の基盤が築かれた。

サプライチェーンのもう一方の端(需要側)では、欧州連合と米国が依然として生食用ブドウの最大の輸入国であり、世界の輸入量の43%を占めている。過去10年間、これらの市場における輸入は年率2%で着実に増加した。米国では過去10年間、1人当たりの消費量が増加傾向にあり、年間平均8.2ポンド(約3.7kg)となっている。予測では、2025/26年度シーズンには初めて9ポンド(約4.1kg)に達するとされている。

最後に、東南アジアは市場多様化の魅力的な選択肢として台頭しつつある。サリナス氏は、「この地域の需要の高まりは、新たな輸出先での戦略的成長を目指す輸出業者にとって未開拓のチャンスとなっている」と結論付けている。